

# 令和元年度第1回柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会会議録

## 1 開催日時

令和元年8月8日（木）午後3時～午後5時

## 2 開催場所

ウェルネス柏4階 大会議室  
（柏市柏下65-1）

## 3 出席者

（委員）

足立委員，菊池委員，窪谷委員，佐藤委員，鈴木委員，橘委員，  
二瓶委員，卷淵委員，宮尾委員，和田委員及び渡邊委員

（事務局）

副市長，保健所長，保健所次長，保健所技監，子育て支援課長，  
こども福祉課長，こども福祉課専門監，保育運営課長，こども  
発達センター長，学校保健課長，保健予防課専門監，健康増進  
課長，地域保健課長，地域保健課専門監，地域保健課統括リー  
ダー，地域保健課副主幹，地域保健課主査及び地域保健課主事

## 4 議題

- (1) 平成30年度母子保健の重点的な取り組み，成果及び課題並  
びに令和元年度の重点的な取り組みについて
- (2) 柏市母子保健計画の進捗報告について
- (3) 柏市母子保健計画の中間評価について

## 5 議事（要旨）

- (1) 委嘱状交付
- (2) 開会

### ・会議成立

委員13人中11名の出席にて，会議の成立を報告。

（加藤委員，染谷委員は欠席）

- (3) 副市長挨拶
- (4) 委員自己紹介
- (5) 会長，副会長の選出
  - ・会長に佐藤委員，副会長に和田委員が選出。
  - ・会長，副会長挨拶

## (6) 議題

ア 平成30年度母子保健の重点的な取り組み，成果及び課題並びに令和元年度の重点的な取り組みについて（事務局説明）

- ・平成30年度の重点的な取り組みとして，①妊娠子育て相談センターの増設②母子保健事業【拡充】③災害時母子支援に関する啓発【新規】の3点について説明
- ・令和元年度の重点的な取り組みである①母子保健計画進捗管理中間評価に向けたニーズ調査 ②妊娠子育て相談センターの充実 ③健康づくりを意識した地域活動，母子保健活動 ④災害時母子支援体制の整備 について説明

### 質疑応答

- ・（佐藤委員）「ママパパサロン」はカップルでの参加を前提としているのか。ママだけしか参加できない方への配慮はしているか。
- ・（事務局）9割以上が夫婦の参加。ママだけ，パパだけ，ママの実母と一緒にと家族のサポート状況に合わせた参加となっている。
- ・（佐藤委員）9割がカップルの参加では，ママやパパだけでは参加しにくいと感じるが，何か配慮をしているのか。
- ・（事務局）グループになるときはスタッフが個別に声かけをしている。

事前の申し込み電話の際，夫婦の参加が多いが，ママやパパだけの参加も歓迎であると説明している。ママやパパだけの参加の方が友達になりやすく，積極的に参加している様子が見受けられる。

- ・（窪谷委員）母子健康手帳交付場所を4箇所を集約し，医療職が全員面談する取組みは，面談率100%を達成し，すばらしい。

母子健康手帳交付の約半数が駅前センターに集約されている。大変利便性の良い場所であり，とても良かった。その後の展開がセンターの充実につながり，大変利便性が向上している。

駅から離れた地域の方の声や、対応が難しかった事例はあるか。

- ・（事務局）第1子の方から苦情はない。第2子第3子の方で、駅まで交付に行くことに負担を感じるという方には地域担当保健師が出向いて、母子健康手帳交付と相談の対応をしたケースが昨年度1件あった。
- ・（足立委員）北部地域の新生児訪問を担当している。訪問先のお母様に、妊娠子育て相談センターの場所を伝えても遠いと言われるが、専門職が在籍しているからと情報提供をしている。

母子健康手帳交付の個別対応をお母様たちに積極的に伝えていいか。

- ・（事務局）田中地域はマンションの増加や宅地化で妊娠届出の件数が増えている。北部の拠点は、地域保健課単独ではなく市全体として検討と考えている。今のところは、電話をいただいた方の事情に合わせた個別対応。
- ・（足立委員）伝えてよいか。
- ・（事務局）検討する。
- ・（足立委員）EPDS高値、ボンディング高値の判定基準は、EPDS高値は9点以上、ボンディング高値は4点以上と捉えてよいか。
- ・（事務局）EPDS高値は9点以上、ボンディング高値は4点以上を計上している。
- ・（佐藤委員）注釈を入れると良い。

ボンディング高値ではなくボンディング障害が正しい表現。

- ・（事務局）訂正する。
- ・（菊池委員）ポピュレーションとハイリスクをどのようにアセスメントしているのか分かりにくい。ハイリスクアプローチとしてこのとりサロン・カンガルーサロンは高齢妊婦と若年妊婦が対象。EPDSやボンディング障害など課題がある方が集えるハイリスクグループの場はあるか。
- ・（事務局）EPDS等の課題がある方へのハイリスクグループの事業はまだない。

- ・（菊池委員）個別対応ということか。

妊娠子育て相談センターの満足度アンケートを、8か月児相談事業の参加者から回収している。8か月児相談事業に参加していない2～3割の方は、どのように捉えているか。満足度など把握できているか。

- ・（事務局）アンケート方法は2つあり、ひとつは8か月児相談事業。未来所の方の意見は把握できていない。もうひとつの方法は新生児訪問。回収率は高くないが、8か月児相談事業に参加しない方の意見も入っている。
- ・（菊池委員）今後の評価では、数字が一人歩きし間違った情報が伝わる可能性があるため、分母を明確にして評価したほうがよい。
- ・（佐藤委員）保健事業に参加している人の評価と参加していない人の評価は、満足度など差があるのではないか。分けて分析すると、どこに課題があるのか分かる。ご検討いただきたい。
- ・（事務局）検討する。
- ・（足立委員）8か月児相談事業はこの時期のお母さんたちにも安心できる事業。会場のウェルネス柏は、北部地域からは行きにくい。新生児訪問の際、会場はウェルネス柏と伝えると、行きづらいという反応がある。行きやすい会場を設定することで、参加率が上がるのでは。
- ・（鈴木委員）思春期保健事業は、中学校の実施数は増えているが、多いとはいえない。実施した効果、今後の予定、計画は。
- ・（事務局）思春期保健の実績は地域保健課が関わっている健康教育の内容。学校現場では、助産師会や医師会、その他の方々が思春期教育に関わっている。その実績も含めればもう少し多い。

健康づくり推進員、主任児童委員にご協力いただき実施している健康教育では、学校を通じ子どもたちにアンケートをとっている。子ども達からは、自分の体を振り返ることができた、命の大切さを感じた、これまで生きてこられたことに

感謝したい等声があった。先生からは、普段伝えられないことを外部の方から伝えてもらうことで考える機会になった、地域の方からも同じような声をいただき、効果はあると考える。

引き続き、関係課関係機関と協力し、着実に進めていきたい。

#### イ 柏市母子保健計画の進捗報告について（事務局説明）

- ・母子保健計画の評価指標38項目について、5年後目標値を達成している項目、計画策定時より悪化している項目について報告

#### 質疑応答

- ・（菊池委員）合計特殊出生率等データの推移も掲載したほうがよい。手元にデータがあれば教えてほしい。
- ・（事務局）今はデータが手元にない。合計特殊出生率も含めデータについては中間評価のときにそろえて評価していく。
- ・（菊池委員）柏市の合計特殊出生率は、平成26年は全国・千葉県より低かった。母子保健計画策定しどのように変化したか。5年後10年後効果が出るものもあるが、取り組みが合計特殊出生率に反映されると、やる気が出るのではないか。

指標推移の、ハイリスク妊婦の割合が悪化しているが、顕在化してきたと説明があった。ハイリスク妊婦の増減について議論する意味があるのか。ハイリスク妊婦や子育て世帯にどれだけ支援できているのかを指標にすべきでは。中間評価後に、計画を見直していく必要がある。

- ・（事務局）全数面談をやればやるほどハイリスク妊婦が増えているという実態。ハイリスク妊婦にどのような支援をしたかということが大切。指標の見直し等もしていく。
- ・（佐藤委員）指標をハイリスク妊婦の「割合」ではなく、「把握割合」にしてはどうか。ハイリスク妊婦割合は潜在化している可能性もあるが、把握割合という指標では、年々増加している。ハイリスク妊婦の割合・特定妊婦の割合は検討してほしい。

- ・（和田委員）ハイリスク妊婦の割合は増えている。平成29年度と平成30年度では230人程度増え、「その他（保健師判断）」がかなり増えている。判断基準が変わったのか、保健師の意識の向上か。ハイリスク妊婦把握を見つける努力の成果が出てきたのでは。
- ・（事務局）「その他（保健師判断）」は面談をして始めて分かる理由で、ハイリスク妊婦と判断するケースが増加した。
- ・（和田委員）努力が功を奏している部分も数字で出してはどうか。
- ・（窪谷委員）産科医療機関の現場では、リスクのある妊婦の抽出と対応が充実してきている。数字が出ないが、実感をしている。受け入れ先やどのように対応していくかについては手探りでやっているのが実感。

合計特殊出生率や指標、少子化が改善されると、子育てしやすい街になっていく。

10代の妊娠届出数が減少しているが、人工妊娠中絶率とあわせて評価すると良い。

- ・（事務局）人工妊娠中絶は、保健所年報等のデータでも市内医療機関からの届出となり、必ずしも市民だけではない。柏市の評価として判断しかねる状況。
- ・（佐藤委員）人工妊娠中絶は、居住地と違う医療機関に行くことも考えられる。
- ・（巻淵委員）歯肉に炎症がある10代の割合悪化している。このデータは毎年実施する小中学校の歯科検診結果をもとにしている。歯科医師会として、検診医の定年を設ける等、正確に診るようにしている。

小学生は永久歯へ生え変わる時期で歯肉が腫れやすいが、親も仕上げ磨きに励んでいる。中学生になると、生活環境の変化、部活や受験、思春期の心の問題などもある。子どもがうまくブラッシングができないことや思春期性歯肉炎もあり、指標の改善は難しいかもしれない。

歯科検診では、学年に1人位口腔崩壊の子がいて、養育環境の問題が疑われる。貧困などの養育環境の問題で歯肉の炎症

が悪化しているのではないか。

- ・（佐藤委員） 今後も見えていく必要がある大事な指標。

ウ 柏市母子保健計画中間評価について（事務局説明）

- ・ 中間評価の目的，内容（市民ニーズ調査アンケート案含む）  
スケジュールについて説明

#### 質疑応答

- ・（和田委員） 指標10「今後も柏市で子育てしたいと希望する親の割合」の，平成26年データベースの数値は，3～6か月児が96.7%と高く，1歳6か月児93.0%，3歳児91.2%となっている。平成27年から平成30年までは3歳児の割合が一番高く，次に1歳6か月児，最後に3・4ヶ月児という状況で推移している。平成26年と逆に推移している理由は何か。平成26年度のデータベースの数値が飛びぬけている。
- ・（事務局）「今後も柏市で子育てしたいと希望する親の割合」は健やか親子の指標でも，非常に大事な指標。策定時の値が飛びぬけているか，年齢があがると改善するのかは，分析できていない。中間評価時に分析していく。
- ・（和田委員） 子どもが小さい時期のほうが親の不安が強いのか。子どもが小さい時期にも力を入れると変わってくるのではないか。
- ・（菊池委員） アンケートの母子に関するサービス等の利用状況の様式は慣れていない方は答えにくい設計になっているのではないか。
- ・（事務局） 策定当時のアンケート結果を見ると，無回答が3～4%。策定時と比較ができるよう，様式は同じにした。
- ・（菊池委員） 比較は必要だが，中身についての比較であり，答え方についての比較ではない。質問項目自体を変えてしまうのは問題があるが，わかりやすくしたほうがよい。
- ・（事務局） 分かりやすくなるよう検討する。
- ・（菊池委員） 中間評価に当たり，予算がどれくらいつき，どういうサービスになったのか，どのくらい柏市が母子保健に

予算をつけているか。例えばつくばエクスプレス沿線に妊娠子育て相談センターを設置する予算を確保するとしたら、こういうデータから出せるのではないか。お金のつき方がこの評価とどう結びつくのか。

職員の自助努力で充実したのか、予算がついて充実したのかが分かりにくい。予算があり充実してきたのか評価すべき。

- ・（事務局）北部については課題と感じている。駅前妊娠子育て相談センター来所者の地域別状況等を分析し、企画部門に発信している。

主要な事業は予算と合わせ評価していただきたい。予算決算は公開資料なので、分かりやすく拾えるような項目は示していく。

- ・（菊池委員）駅前をはじめ、各妊娠子育て相談センターには予算がついていると思う。変化がでてくると良い。
- ・（佐藤委員）体制整備についても評価の対象で、予算も指標になるのではないかとのご提案。
- ・（足立委員）災害時の母子支援は早急の対策が必要。マニュアル整備や啓蒙活動を実施しているという報告だが、お母様たちの関心を引き出すところには至っていない。マニュアル整備の委員会を立ち上げるのか。母子の災害マニュアル作成は、どういう方が関わるのか。
- ・（事務局）マニュアルの整備は、担当課同士で進め、その後庁内というように進めていくように考えている。今の段階では外部の方も交えた委員会の立ち上げは考えていない。まずは問題点を抽出し、今できることをやっていく。

アンケートは、検討し、会長預かりということで会長に一任する形でよいか。

- ・（佐藤委員）ご意見があれば、来週中にご連絡いただくよう、お願いしたい。
- ・（事務局）9月中の発送予定のため、来週までにご意見を。

(7) 事務連絡

(8) 保健所長挨拶

(9) 閉会

6 傍聴者

0 人

7 次回開催日時（予定）

令和2年2月6日（木）午後3時～午後5時